

I 実践

1 研究主題

互いに思いやり助け合う児童の育成を目指して

(1) 主題設定の理由

「進んで学ぶ、心豊かでたくましい児童の育成」という本校の教育目標を受けて、友達の見解をよく聞き、自分の意見をはっきり言える子、誰とでも仲良くし親切的な行動ができる子、協力し合い励まし合って活動できる子の育成を目指し、教育活動全般を通して、人権教育に取り組んでいる。

本学級（特別支援学級）は、異学年の児童（1年2名、2年1名、5年3名）が一つの教室の中で一緒に学習したり生活したりしている。しかし、国語と算数の学習活動では、個別の指導計画に従ってそれぞれ個々の学習課題に取り組んでいるため関わりをもつことは少ない。また、学年差や能力差が大きく会話や遊びでの関わりも多くは見られない。そこで、生活単元学習の体験活動や学級活動を通して、異学年集団の良さを引き出し、互いに思いやり助け合う心を育てていきたいと考え、本主題を設定した。

2 実践内容

(1) 生活単元学習の活動を通して

ア 「ふれあい学習交歓会に参加しよう」の活動では、リズムの練習やバスの乗り降りの仕方、バス料金の支払いの仕方などを、経験のある児童と初めての児童をグルーピングして練習を進めることで、上級生が低学年の面倒を見たり、教えたりする場を設定し、関わりが深まるようにした。

イ 「クリスマス会に参加しよう」の活動では、ゲームの説明やお礼の言葉、終わりの言葉の役割を2人組で行うようにし、一緒に練習する機会を多く設定し、協力して活動することの大切さが実感できるようにした。

ウ 「ホットケーキを作ろう」の活動では、3人グループを作り、5年生がリーダーになって、準備から後片づけまで行うようにした。グループごとに自分たちで役割分担して進めることで、自分の役割を認識し、助け合って進めなければホットケーキはできない状況を設定した。教師は、安全面での配慮をしながら、側で見守るスタンスを取るようにした。

(2) やさしさボックスの設置を通して

友達に親切にしてもらったこと、優しくしてもらったことなどをカードに書き、ありがとうの言葉を伝えるようにした。文を書くことが難しい児童には、教師が聞き取って一緒に書くようにした。友達との関わりを振り返ることで、あらためて自分の周りの友達のよさや優しさに気づくことができるようにした。子供たちに人気のキャラクター「ドラえもん」をボックスやカードに使うことで、より親しんで取り組むことができるようにした。



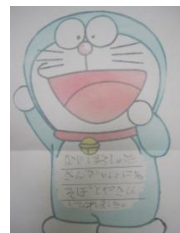
(ふれあい学習交歓会に参加しよう)



(ホットケーキを作ろう)



(やさしさボックス)



(やさしさカード)

3 成果

(1)「ふれあい学習交歓会に参加しよう」では、5年生が自分の経験を振り返ることで、教えてあげることがたくさんあることに気づき積極的にリーダーシップを取って活動を進めることができた。バスの料金を暗算で計算する5年生を見て、1年生が「すごい。」と認める場面もあった。バス料金を行きと帰りに分けて袋に入れる活動では、お金について知識の少ない1年生に「教えてあげる。」と言って自分から行動することができた。

「クリスマス会に参加しよう」では、家の人や交流学級の先生方を招待して行うということもあり、張り切って準備を進めることができた。「ゲームの説明」を担当したグループ(5年と2年)は、交互に話すことに決め、話す内容を話し合ったりリズムの踊り方の手本を見せることにして練習したりすることができた。最初は文を読んで説明していたが、繰り返し練習したことで、当日は暗唱して行うことができた。「おわりのことば」を担当した1年生グループは、おわりのことばの前に感想を発表することに決め、役割を決めて練習した。二人だとすぐ集まるので、どちらかが「やろう。」と声をかけて、自主的に練習する場面が多く見られた。

「ホットケーキを作ろう」では、準備、ホットケーキ作り、片付けまでの全ての行程を3人で行うようにし、話し合いの時間を十分に取った。5年が皿を洗い、2年が布巾で拭く。1年が粉と卵を混ぜ、2年がボールをおさえる、5年が牛乳を少しずつ加える。など協力して作業を進めることができた。それぞれが自分の役割をしっかりと果たすことができたことで、互いを見直したり、認め合ったりすることができた。

(2)やさしさボックスを設置すると、ドラえもん型のボックスが気に入り、みんなで取り組むことができた。優しくしてもらった経験や親切にってもらった経験の内容は、「遊びに入ってくれた」「いつも優しい言葉をかけてくれる」「勉強を教えてくれた」などが多かった。自分も同じことをしたいという意識が育ってきた。

II 今後の課題

少人数の中では、少しずつ友だちとの関わりが増え、休み時間や清掃など他の場面でも声を掛け合って一緒に遊んだり協力して仕事を進めたりすることができるようになった。しかし、集団が大きくなると、自分の意思を伝えたり、意見を言ったりすることは難しくなる。また、優しくしたい気持ちや感謝の気持ちはあっても、それを表現するのは教師に促されてというのが多い。今後は、それぞれの良さに気づくきっかけとなる場や協力することの大切さを実感できるような活動を多く設定することで、いろいろな集団のなかでも素直に気持ちを表現し、互いを認め合い協力していくことができるようにしていきたい。

III 人権コーナー設置の様子

